藻類 Jpn. J. Phycol. (Sôrui) 62: 175, November 10, 2014

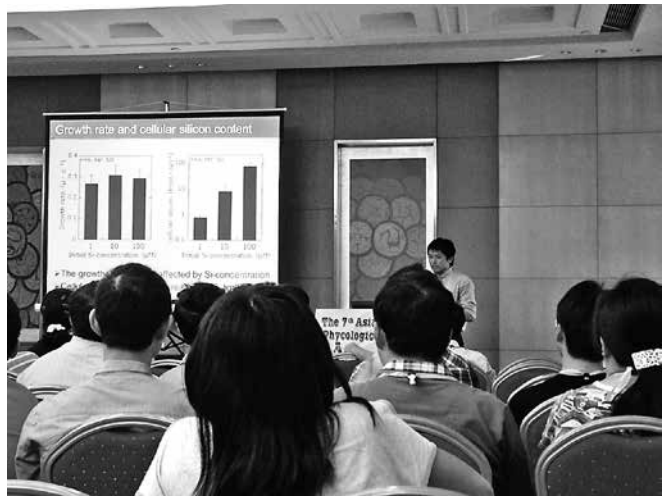
# The 7th Asian Pacific Phycological Forum 参加記

山田和正

Asian Pacific Phycological Forum（APPF）は，3 年に一度，アジア・オセアニア地区において開催される，藻類に関する国際会議です。APPF 第 7 回大会は，2014 年 9 月 20 日から 24 日にかけて，中国の武漢において開催されました。今大会では，Plenary lecture が 5 題，口頭発表およびポスター発表が約 100 題ずつ行われた他，“Climate Change, Seaweed and CO2 Sequestration”および“Progresses and Perspectives of Algal Biofuels Research”と題したシンポジウムが行われました。

私は，口頭発表に関しては，主に“Algal Physiology & Cell Biology”および“Algal Biofuel”のセッションに参加しました。これらのセッションにおいては，約 40 題の発表が行われ，その内の 7 割ほどは微細藻類を対象とした研究でした。研究内容としては，基礎生産および有用物質生産における藻類の重要性を背景として，複数の培養条件下で増殖速度や物質生産量，遺伝子発現量などを測定し，生理学的な性質を考察するといった研究が数多くあり，改めて，この分野における基礎生理研究の重要性を感じました。また，研究の多様度は決して低くなく，緑藻クラミドモナスの水素生産量の増加を目的に，光化学系 II の反応中心を標的として人工 miRNA による形質転換を試みる研究や，緑藻クロレラのトリアシルグリセロール（TAG）生産量の増加を目的に，ゲノム情報と代謝パスウェイ解析を利用して，今後の遺伝子工学的な発現制御に最も適した分子を理論的に導き出す研究など，これまで馴染みのなかった研究も多くあり，大変勉強になる内容でした。また，別の会場においては，“Algal Taxonomy and Phylogeny”や“Algal Ecology and Environmental Biology”, “Applied Phycology”のセッションも開かれていました。私自身は，“Algal Physiology & Cell Biology”のセッションにおいて，口頭発表を行いました。質疑応答時に的確な返答ができなかったことに悔いが残りましたが，発表後に，研究内容に興味を持っていただいた方々と有意義な議論を交わしたことや，student competition において 3 位に入賞したことは，今後の研究の糧となる良い経験になりました。

大会期間中は，他の研究者の方々と交流する機会が数多くありました。初日のウェルカムレセプションで軽食をつまみながら，一日三度の中華料理を食べながらと，飲食をしながらの交流の場では，日本人研究者の方から他国の学生を紹介して頂くなどの援助もあって，新たな知り合いができ，お酒や料理，互いの研究内容を話題にしながら交友関係を深めました。そこで顔見知りとなった方々とは，その後のポスターセッションや，自身の口頭発表後において，研究に関する多くのディスカッションを交わしました。英語が流暢でない他国の学生も多かったため，スムーズな英会話ができない私でも，気を使わずに，焦らずに，英語での議論を進めることができました。英語圏の参加者が少ない APPF は，国際会議だと肩ひじ張らずに気軽に参加して他国の研究者と交友関係を深めることのできる大会であると感じました。




口頭発表の様子

また，日本人の先生方が他国研究者と非常に深い付き合いをしている様子を見て感じたことですが，今後 APPF という藻類に関する国際会議を維持，発展させていく上で，学生の内から継続して APPF に参加して，アジア・オセアニア地区の研究者と密接な関係を築くことは大事だと思いました。今回の APPF には，日本から学生の参加者が少なかったため，次回大会では，是非多くの学生に参加して欲しいです。次回の APPF は，2017 年にマレーシアで開催されます。中華料理も大変おいしかったですが，多様な食文化の融合により進化してきたと言われるマレーシア料理も大変興味深いと思います。参加者が増えることを期待しております。

（福井県立大学）